

19年度の鳥取県中小企業 青年中央会の活動方針



県会長 **田中 寛之**

7月20日の県総会にて会長に就任してから早くも3ヶ月が経とうとしています。19年度の鳥取県中小企業青年中央会の活動テーマを「共感」と掲げ、鳥取県中小企業青年中央会を各地区青年中央会の「交流の場」と位置付け、会員相互の交流をより一層深めたいと

考え、共に感じ、共に感動できる事業を企画・運営してまいります。その事業を通じて各地区青年中央会のさらなる発展に貢献したいと考えます。

また、各地区の会員交流にとどまらず、鳥取県の団結と活性化のために活動している「ガイナレ鳥取」との交流も進めてまいります。具体的な活動として、9月22日に安蔵森林公園で開催した「県出向役員研修会」、間近に迫った10月28日にバードスタジアムで開催するガイナレ鳥取の選手を交えての「サッカーで共感しよう」をテーマとした「親睦事業」、本年度は副委員長も交えて1月26日～27日に開催予定の「委員長・副委員長交流会」、4月に株式会社SC鳥取の塚野真樹社長を講師としてお招きして開催予定の「経営研修会」などがあります。東部青年中央会会員＝県青中会員でありますので、東部会員が一枚岩となって各事業に積極的に参加いただき、19年度の鳥取県中小企業青年中央会を盛り上げていただきたいと思いますのでどうぞ宜しくお願い致します。

Information

●新入会員紹介

- 村井 慎也**
有限会社鳥取樹脂／カイゼン委員会
- 矢谷 賢司**
株式会社矢谷印刷所／クロスメディア委員会

編集後記

新年度が始まり、ようやく3ヵ月半が経過しました。年度始めは、大きな行事が立て続けにあり、本来の委員会活動がなかなかできないのが通例ですが、ようやく各委員会の本来の活動が始まりました。今年度の活動テーマ「次代を見る」サブテーマ「感性を磨け」のもと、6委員会がそれぞれの計画に基づき、一丸となって活動しております。

先般、クロスメディア委員会で各委員会の委員会活動の様子を取材をさせていただきましたが、それぞれの委員会の内容の濃さに、刺激を覚えました。これからもそういう刺激を求め、感性を磨いていきたいと思っております。(by クロスメディア委員長)

クロスメディア委員会オフィシャルブログ

クロスメディア委員会 **山本 浩**

今年度より、クロスメディア委員会では、青年中央会の活動の様子を、リアルタイムに発信していこう、という試みを行っております。7月よりスタートをしましたが、委員会活動、例会の様子、イベントの様子をリアルタイムに発信しております。また、今年は県会長が東部の田中寛之氏ということもあり、県総会の様子も入れるなど県の行事の様子も盛りだくさんに取り入れていこうと思っております。みなさま、お気軽にのぞいてみてくださいませ。

アドレスはこちら→
<http://crossmedia.blog113.fc2.com/>



フラワー実行委員会からの お知らせ



第7回フラワーフェスティバル実行委員長
池口 哲夫

9月25日に第1回実行委員会を開催し、いよいよフラワー実行委員会が活動開始しました。本年度も鳥取湖陵高等学校さま他諸団体さまのご協力のもと、平成20年4月20日(日)の開催日に向けて、イベント内容を計画中です。会員、会員家族、行政、そして市民の方々と一緒になって、湖山池お花畑ゾーンでの楽しいひと時を過ごしていただける内容にしていきたいと、私をはじめ実行委員一同はりきっております。今後も会員皆様のご協力をお願いすることありますが宜しくお願いします。

なお、昨年に引き続き、ブログ「咲かそう ふれあいの花」を運営しておりますので実行委員会の活動の様子をご覧下さいませ。

アドレスはこちら→<http://ameblo.jp/seichuu/>

鳥取県東部中小企業青年中央会 会報

OZORA

あおぞら

■平成19年度テーマ「次代を見る」■サブテーマ「感性を磨け」

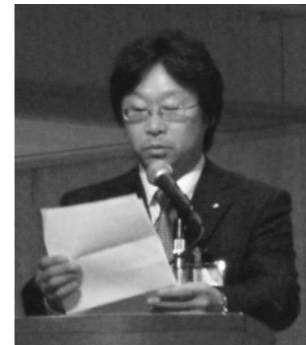
2007年10月発行
No.145

発行人 谷口 昌弘(平成19年度・会長)
編集責任者 山本 浩(クロスメディア委員会委員長)
編集委員会 クロスメディア委員会
URL:www.tsc21.gr.jp E-mail:tsc@tsc21.gr.jp

「われわれは自己の研鑽につとめ、英知を養う。
われわれは社会に奉仕し、お互いの友愛を深める。
われわれは団結して中小企業の発展を図る。」

鳥取県東部中小企業青年中央会

会長あいさつ



会長 **谷口 昌弘**
TANIGUCHI MASAHIRO

青年中央会の2イベントの1つ、第7回親子ふれあい24時間が開催され無事終了いたしました。皆様のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

30周年を機に青年中央会の方向性はビジネスに特化した会を目指しています。イベントに関しては青年中央会のアピール、地域貢献、会員同士の楽しみ、などを幹に2回開催予定になっています。昨年より12月の家族例会は中止になり、会員同士のふれあい、絆を深める行事は少なくなっています。会員のアンケート(6月実施)の結果で「青年中央会は変わったと思いますか?」という質問の約68%がどちらかといえば変わっていない、昨年より23%UPしています。また在籍年数は、1~3年が43%、4~6年41%で会の大半を占めます。「時代に挑み、次代を創る。」のキャッチフレーズの基4つの挑戦を掲げ進化している青年中央会のイベントの方向性を考える必要があるか

もしれません。今年度はこどもの国も、指定管理者制度の導入で園長さんも米田園長さんに変わり青年中央会活動等のご理解をいただくことに山本実行委員長に努力していただきました。会員のパワーをかけないようアピール度は変わらないように会員同士の時間が取れるように配慮したイベント内容で企画しました。お盆明けの土日での開催は、日本中が暑さのピークに達した週末にあたり、こどもの国の来園者数も前年を大きく割れていましたが、開催両日の来場者数は約2500人で米田園長さんも喜んでおられました。会員の皆様お疲れ様でした。

9月例会は「人間力」をテーマにと鳥取キタロウズの加藤監督にご講演いただきました。鳥取出身の南海ドラフト1位指名、プロ野球生活21年のベテラン、現在野球解説者、野球を通じて鳥取を盛り上げようと九州からお越しいただきました。今年度は著名な講師をお呼びして刺激を受ける例会になるように各委員会に企画していただいています。9月末のカイゼン委員会のオープン委員会も、トヨタ出身(在籍40年)ベテランの熱い講師をお招きした委員会でした。製造業以外の方に大変好評で盛り上がり今後の展開が楽しみです。10月例会も経営系で昨年人気の講師を神戸からお呼びしての例会です。今回の内容も非常に期待できると思います。知恵と工夫で委員会、例会を盛り上げ、青年中央会のDNAを残しつつ進化、継承していく年にしたいと思います。皆様の更なるご協力宜しくお願いいたします。

例・会・報・告

7月例会

青年中央会に入って5年目の今年、初めて委員長という大役を仰せつかりましたがいきなり7月例会担当というこれまた大役を仰せつかり、気合を入れて望みました。ベテランの井上担当副会長、そして女房役で大変心強い存在の上田副委員長、並びにクロスメディア委員会のメンバーにささえられ、来賓、OBもご臨席される7月例会を無事に乗り切らねば、と決意しました。今回、趣向を凝らし、フレアパーティーとして名高いあの「前田兄弟」の妹分の「KAZUHA」さんのカクテルショーを企画しましたが、大変好評だったということで、とりあえずホッとしました。7月例会は「谷口年度」のスタートである大変重要な例会でしたので、最後まで気を抜くまいと決意しました。しかし、大変盛り上がったという言葉は会員の皆様、OB、来賓の皆様にもいただき、感無量でした。この勢いで、この一年突っ走って行きたいと思っております。



クロスメディア委員会 委員長 **山本 浩**

9月例会

9月例会は、わがフロンティア委員会のテーマである「人間力」に基づき、部下に愛される上司とはどういう人なのか? コミュニケーションを図りやる気にさせるためには、どのようなコツがあるのか? をテーマに元プロ野球選手で、引退後地元「鳥取キタロウズ」を監督として率いておられる加藤伸様を講師にお迎えし、実体験を元にお話をいただきました。私との対談形式という新しい試みで望みましたが、プロ野球という厳しい環境に身を置かれ、更には明日のプロ野球選手を夢見る若者を統括しておられた経験をお話していただき我々が参考にすべき考え方を垣間見ることができました。普段なかなかお目にすることの出来ない有名な方の講演は大変充実した結果に終わり大変良かったと感じています。



フロンティア委員会 委員長 **鶴巻 順**

第7回

親子ふれあい24時間



第7回 親子ふれあい24時間を終えて

実行委員長 山本 宏幸



会員の皆様、8月18日、19日に開催しました『第7回親子ふれあい24時間』おつかれさまでした。

昨年同様、連日の猛暑の影響で、子どもの国自体の集客も落込み心配しましたが、何とかそこそこの集客がありました。

今年度は5月4日に実行委員会を立上げ、中央会にベテラン（重鎮?!）と新人で選りすぐりのメンバーを委員に招集し短期集中の実行委員会を開催しました。実行委員会では前半、当イベントの方向性について激しい議論をし、そして新旧中央会3役を交え議論を行なった結果、1日目は会員相互の親睦を！そして恒例の両日運行のヘリコプターの周遊、2日目はそうめん流しに集中し運営することになりました。さらに「会員負担の軽減とゆとりの時間をつくる」を念頭に置き運営内容の協議を行なっていました。

そして、会員の役割分担を極力均一化にし、例年、そうめんについては、会員による竹きりを行なっていましたが、今年度は竹きり・製作を外部団体に委託し会員負担の軽減に取組みました。

当日1日目では、ヘリコプターの好調な滑り出しを皮切りに、親睦中心の夕食、そして「八木・森原会員」の掛合い漫才風の名司会により各競技で会場をにぎわせました。2日目は恒例のそうめん流し。やはり会員、一般のお客様それぞれ満面の笑みが浮かぶ催しとなり大成功だったと思っております。

これもひとえに実行委員・各会員のご協力があったて出来た事と思っております。また、前実行委員長（平井相談役）の言葉で、「報酬は感動！」が分かった気がしました。

次年度は今年度の前半の事を考えれば、イベント取組みの転換期になると思います。会員みんなで力をあわせ、素晴らしいイベントの方向へ導きましょう。

最後に皆様本当にありがとうございました。

